

# 穂高岳に魅せられて

登山のデビューは31歳 昭和48年9月27日～2泊3日の穂高岳縦走でした。

私は当時趣味でSLの撮影に夢中で全国を駆けずり回っていました。国策で昭和40年代はエネルギーの転換期、石炭から石油にと国鉄も動力の無煙化が進み次々とSLが消えて行きました。その年の夏頃先輩がSLは消えるが山は無くなるぞ！ 山の写真でも撮りに行かないかと誘いに来ました。元々山育ちの為、興味がありましたので誘われるままに付いて行くことにしました。山域は長野県北アルプスと言っていました。撮影機具は揃えて、登山装備は全部先輩たちからの借り物でした。男3人マイカーの運転を交代して上高地に到着後仮眠、天気も良く青空をバックにデーンと高い山が見えました！富士山以外3000m峰は初めての事で、今から穂高連峰の縦走をしてここに戻って来ますとこの時に始めて目的地を知らされました。明神～徳沢～横尾と進み吊り橋を渡り涸沢へ、垂直にそびえる屏風岩は見る者を圧感し500m位は有るのではと勘違するほどの高さでした。横尾谷の丸太橋を渡り登りもさほど苦にならず涸沢ヒュツテに到着、紅葉には少し早かったがテラスからの眺めは最高3000m峰を前に時の経つのを忘れ夕食ですよと呼びに来るまで撮影に夢中でした。山小屋の宿泊は初めてで夕食はハンバーグの御馳走、ご飯と味噌汁のお替わりは自由でした。喫茶室での団欒は初対面の人とも会話が弾み楽しく過ごしました。

翌日は朝焼けを見ながら北穂高岳目指し高度が上がるにつれて涸沢カールが箱庭の様に見えました。あと一息と励まされて3106mの北穂高岳に登頂しました。正面には山並みの先に一段と高く聳え立つ槍ヶ岳、右側はこれから行く奥穂～前穂高の稜線が見え、左側は垂直に切れ落ちている滝谷を見て身震い、乗鞍岳白山も眺望でき絶景に時の経つのを忘れてシャッターを切りまくり感激でした。次は奥穂高いよいよ縦走が始まり期待と不安が交叉する中、気を引き締めて一歩一本進み涸沢槍近辺で女性が立ち往生、どうしましたか？ルートが分からず怖くて進め無いのです。置去りにして行く事も出来ず3人でサポートしながら穂高岳山荘に無事到着。秋の夕暮は早いもので先を急ぎ2座目の奥穂高に登頂絶景かな！真下に涸沢カールを見おろし、槍ヶ岳ジャンダルムに感動し3座目を目指して進む。釣り尾根は上高地で見た目とは大違い厳しくガスが湧き出し明日の天気が気がかりだ、前穂登頂は断念し岳沢ヒュツテを目指し一目散に下り宿に着いた時は日が暮れていました。昨夜とは違いひっそりとしていました。夜中に叩きつけるような雨音で目が覚め登山道が流されて下山できるのか心配でした。無事駐車場に着いたが以外に静かなバスターミナル、貼り紙があり松本方面からの国道158号線が通行止めです。大雨の影響で土砂崩れが発生し開通の見込みは不明です。通行止めに遭遇 中ノ湯温泉旅館で汗を流し開通するのを待ちました。お昼過ぎに開通し自宅に到着したのは午後11時過ぎで長い一日でした。デビュー登山から40年経ち北穂高岳からの絶景が脳裏に叩きつきこの時から我が登山人生が始まりました。なぜ私は山に登るのか？それは男のロマン、夢と希望と感動を求めて、新しい感動が生まれる。人生は急がずゆっくりと山に登る様に！！

平成25年10月

尾崎拓雄